vinetur

ペルノ・リカール株主、現金か株式を選べる柔軟な配当を承認

1株当たり2.35ユーロの配当で最大973万株を新規発行する可能性。Pernod Ricardは手元資金の確保を図る

2026年11月21日（土）



Pernod Ricardの株主は11月20日金曜日に開かれた同社の年次合同株主総会で、柔軟な配当方式を承認した。フランスの酒類大手が財務の柔軟性を確保し、バランスシートを強化する狙いで、投資家は最終配当の残額を現金または新規発行株式で受け取ることを選べる。

同社によると、配当の残額は1株当たり2.35ユーロに設定された。総会で承認された計画では、株主はこの支払いを現金または株式で受け取ることができる。Pernod Ricardは、この仕組みで発行される新株は最大約973万株になる可能性があると述べた。

この決定によりPernod Ricardは、株主還元と投資需要、債務管理、まちまちな市場環境のバランスを取る大手飲料企業にとって、資金を管理する新たな手段を得る。蒸留酒業界では、配当の一部を株式で支払うことで大手メーカーが流動性を維持し、取引環境がさらに厳しくなった場合にも、ブランドや流通、買収、バランスシートの改善に向けた支出を支えられる可能性がある。

Pernod Ricardは今回の措置について、変化する市場環境やグループの戦略上の優先事項に応じて配当を調整する、より広範な配当方針の一環だと説明した。同社によると、この措置には、株主還元を続けながら財務面の機動性を維持する狙いがある。

総会では、前会計年度の業績も検討された。Pernod Ricardによると、議論では主力市場での成長と近年の買収案件の統合が取り上げられた。採決後に公表された発表文には、これ以上の事業詳細は記されていないが、同社は経営陣が販売面の進展と、長期的な価値創出に向けた事業の態勢整備の双方を強調したと述べた。

同グループは総会で、配当以外の優先事項も強調した。Pernod Ricardによると、取締役会はワイン・蒸留酒事業全体で持続可能な発展とイノベーションに取り組む方針を改めて確認した。世界の飲料企業が利益率の維持、変化する消費者需要への対応、商品開発への投資を迫られる中での表明となった。

株主は新任取締役の選任を追認し、同社が長期的な価値創出に沿うと説明する経営陣の報酬案を承認した。Pernod Ricardは簡潔な発表文で、取締役会や報酬体系の変更について詳述しなかったが、これらの議案が総会で採択された主な決定事項に含まれると述べた。

11月20日に承認された配当の仕組みは、株主に選択肢を与える一方、世界最大級の蒸留酒メーカーの一社である同社の当面の現金流出を抑える可能性がある点で注目される。国際的に大規模な事業を展開する企業が、株主還元を全面的に縮小することなく強固なバランスシートを維持しようとしている飲料業界でも、動向が注視される可能性がある。

世界各地の市場で販売されるプレミアム蒸留酒やワインを幅広く展開するPernod Ricardは、事業環境の変化に応じて財務上の余力を維持するための先を見越した取り組みの一環として、柔軟な配当方針を位置付けていると述べた。